

---

---

## ホットニュース(平成16年度／第77号)

---

---

### ●今月の業界ホットニュース／中国便り・その6

まだ中国での業務が続いているので、先週のサッカーアジア杯日中決勝戦での中国サポーターに関する報道を興味深く見ていた。日本のマスコミは反日サポーターの背景などを色々分析してくれたが、人民日報日本語版(インターネット)では次のような記事で荒れた様子さえ窺えない。

「サッカーの2004年アジアカップ決勝が7日夜に行われ、中国代表チームは1対3で日本に敗れ、準優勝となった。中国チームはアジアカップ制覇のチャンスを逃してしまっただが、中国のサッカーファンは気落ちすることなく、情熱も衰えず、かえってさらに理性的になり、中国チームへの自信やこだわり、寛大さがさらに増した。中国のサッカーファンらは「サッカーは世界のものだ」と話し、永遠に中国チームを応援していく気持ちを示した。」

仕事をしていて感じるのだが、中国人はもともと個人主義で絶えず周囲に自分の立場を強く主張する。例えば我々調査団と会議をしている、日本人に説明しているのか同席している中国人に訴えているのか、後者ではないかと思うことがよくある。喧嘩をしてもお互いに譲らないので、激しく口論するのは周囲の人に自分の立場を認めて貰うためと言われている。とすると、自分が熱烈なサポーターであることを周囲に表現するのに、最も簡単なのが日本ブーイングだったことも一因かもしれない。

(代表取締役 堀田 紘之)

---

---

### ●地域住民主体の地域振興 ～市町村合併に埋もれないために～

---

---

現在、全国で市町村合併の協議が進められている。新潟県で上越市を中心に14市町村の合併が予定されている地域がある。その合併地域に含まれる柿崎町では、複数のまちづくり団体が立ち上がり、今年度から連合組織となる「ネット柿崎」を立ち上げた。ネット柿崎は地域住民が主体となり、合併後も現柿崎町の地域振興を目的に組織化された。これまで独自にまちづくり活動をおこなってきた12の団体と個人会員が集まり、相互に活動を支援するとともに、ネット柿崎主催の事業を行っていく。

ネット柿崎では、今年度、3つの事業を実施する。まず、本年5月4日には柿崎港で「柿崎ナベ輪ピック」というイベントを実施し、町内外から多くの客を呼び込んだ。次に、7月31日から8月15日まで、そうめんや野菜、特産物などを販売する夏季店舗を開設し、柿崎の食文化等をアピールした。3つ目の事業は、今後、町外へ町をセールスしていくために、町民自らが柿崎町の良さを知るための「魅力発見シンポジウム」を開催する。平成17年1月の開催を目指し、ネット柿崎を中心として、準備を進めている。

合併後、大きな市にとりこまれ、自分たちの地域が埋もれてしまうのではないかと心配する町村が多い中で、ネット柿崎は柿崎地域を後世まで残していこうとがんばっている。

(第二計画部 内山 征)

---

---

### ●交通バリアフリー教室の効果と今後の課題

---

---

2000年11月に施行された交通バリアフリー法や、2003年4月に改正されたハートビル法により、基本構想の策定や鉄道駅でのバリアフリー化が着

実に進められている。今後さらに、交通バリアフリー社会を実現していくためには、こういったハード面の取り組みだけではなく、「こころのバリアフリー」つまり、困っている人がいたら手を貸そうという意識の促進を併せて行っていくことが重要であると考えられている。これに対し現在、国土交通省が中心となって全国各地で交通バリアフリー教室が開催されている。ここでは、小学校教育における総合的学習の授業の一環として行われた交通バリアフリー教室の効果について、筆者らが行った意識調査結果を基に紹介したい。

最も大きな効果として挙げられる事は、お年寄りや体の不自由な方への介助行動に対して「自分がしなくてはならないけど、どうしたらよいかわからない」と思っていた生徒たちが、バリアフリー教室を体験したことにより具体的な対処方法を理解し、行動する意志を持った点である。特に、お年寄りや体の不自由な方と接する機会が少ない生徒達にとっては貴重な体験となったことが伺える。更に、車いすや視覚障害の疑似体験を通じて、駅のバリアフリー施設の必要性を理解した点も大きな効果である。

その一方で、今後のバリアフリー教室に対する課題も明らかになった。それは、生徒達がバリアフリー施設を必要だと考える1つの動機に、自らの介助行動の意識の低さが関与する可能性が示唆された点である。つまり、施設さえ充実していれば、自分たちは手を貸す必要がないと考える傾向である。このことから今後、適切な施設整備とそれに併せたソフト施策の関係性について更なる調査・研究を進めて行くことが重要になると思われる。

(第一計画部 関 陽水)

アルメックホットニュース(平成16年8月15日発行)

////////////////////////////////////